平成３０年度学校経営シート

学校法人三重徳風学園

**１　本校が目指すもの**

**（１）目指す学校像**

Ⅰ「守る」～命と暮らしの安全・安心を実感できるために～

　Ⅰ－１　防災対策

　　　**Ⅰ－１－１　防災対策の推進**

Ⅰ－１－２　治山・治水・海岸保全対策の推進

|  |  |
| --- | --- |
| 学校像１ | さまざまな課題・特性を持ち、「困り感」や「生きにくさ」を感じながらも何とか生きていこうとする子どもたちを受け入れ、**仲間と共に学校生活を送る場を徹底して保障する学校**（No student left behind） |
| 学校像２ | 生徒が「社会人として必要な基礎的・基本的な学力」と「職業人として必要な実践的・専門的な技能」を身に付け、**入学時に想定されたよりも大きな成長を遂げて卒業する学校**（Overachievement） |
| 学校像３ | **生徒が「この学校で学べて良かった」、保護者が「この学校に通わせて良かった」、教職員が「この学校で勤務して良かった」と心から思える学校**（We love “Tokufu.”） |

**（２）目指す生徒像**

|  |  |
| --- | --- |
| 生徒像１ | 自己成長感（「できなかったことやあきらめていたことができるようになった。得意だったことがもっと得意になった。」という実感）、自己効力感（「どのような問題でも、関連する知識を身に付けたり情報を得たりして努力・工夫すれば、ある程度は解決できる。自分もやればできる。」という実感）、自己有用感（「集団や社会の一員として自分は確かに役立っている。」という実感）を持った生徒（Self-esteem） |
| 生徒像２ | 自己指導能力（その時、その場で、何をすべきで何をすべきでないのか、どのような振る舞いが適切なのかを、自ら考え、判断し、自主的・主体的に行動する能力）を持った生徒（Self-guidance） |
| 生徒像３ | 自立と社会参加に必要な基礎的・基本的な知識・技能とソーシャル・スキル（他者と良好な関係を形成・維持していくための知識・技能）を身に付けた生徒（Social-skills） |

**（３）目指す職員像**

|  |  |
| --- | --- |
| 職員像１ | 多忙な同僚を助け、役割と役割の隙間にある誰の仕事でもない仕事を自分の仕事と思って動く協働の姿勢と利他の精神（Collaboration＆Altruism）を体現した職員 |
| 職員像２ | 目指す学校像・生徒像の実現に向けて主体的に職能成長を続ける専門職（Profession）としての姿勢を体現した職員 |

**２　学校経営課題**

（１）生徒募集について

　　　生徒募集関係業務（中学校訪問、オープンキャンパス、入学試験）について、志願者・入学者増につながる効果的な在り方を研究し、できることから実施していきます。

（２）学校経営の改善について

平成３０年度中に「学校経営改善計画案」を策定します。

ア　総合コース再編案の策定

　　　　既設の「ネイルアート講座」、「グローバル・コミュニケーション講座」等のほかにどのような講座を開設すればよいか、生徒募集につながる特色ある新たな講座の教育内容を検討し、再編案を策定します。

イ　平日サポートコース活性化案の策定

　　　　津駅から徒歩数分という「地の利」を生かし、生徒募集につながる魅力的な教育課程を編成するとともに、広報活動の強化を図ります。

ウ　新たな技能連携校の確保

　　　　昨年度を最後に専修学校１校との技能連携が取り止めとなったことから、新たな技能連携先となる専修学校の確保に向けた広報活動等に努めます。

（３）徳風技能専門学校高等課程の教育課程について

　　　上記（２）アの取組との関連を図りながら、現在の「商業実務」に加えて新たな分野を設置することなども視野に入れ、魅力ある教育課程となるよう調査研究を開始します。

**３　当面の重点実践項目**

本校独自の特色ある教育活動や仕組み等を**「徳風スタイル」**として整理しながら、「目指す学校像・生徒像」の実現に向け、平成３０～３２年度の３年間、次の３つの取組を「重点実践項目」として計画的に実践します。

|  |  |
| --- | --- |
| 重点実践項目 | 計画概要 |
| １　自学自習方式による「積上げ学習」の実施 | ・平成３０年度から、総合コースの選択講座「グローバル・コミュニケーションⅠ・Ⅱ」の受講生を対象に、英語の公文式教材を新たに導入。・その成果と課題を検証し、平成３１年度から毎年度、総合コース１・２年生を対象に、英語・数学・国語の公文式教材による「積上げ学習」を導入。 |
| ２　知識活用型授業・　　課題解決型授業の実施 | ・「主体的・対話的で深い学び」を追求する授業を全教科で実践できるよう、平成３０年度から授業研究を全校体制で実施。 |
| ３　ソーシャル・スキル・トレーニング（ＳＳＴ）の実施 | ・平成３０年度入学生を対象にＳＳＴを正規の授業として新たに実施。・その成果と課題を検証し、平成３１年度から毎年度、入学生を対象にＳＳＴを実施。 |

**４　本年度の計画と自己評価**

以下において、「目指す状態」欄には概ね３年後に実現したい状態を、「実践内容」欄には目指す状態を実現するために本年度実施する内容を、「評価指標」欄にはどのような状態になれば概ね満足と自己評価できるかという指標を、「行動計画」欄には評価結果を踏まえた次年度の計画を、それぞれ具体的に記入しています。

**（１）教育活動**

**ア　学習指導**

|  |  |
| --- | --- |
| 現状と課題 | 共通的な取組よりも各教員の自主的な工夫に任されている。今後は、「主体的・対話的で深い学び」を目指す授業の在り方について校内研修等を行い、更に共通理解を深める必要がある。 |
| 目指す状態 | 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を目指す「積上げ型授業」と知識・技能を活用して問題解決等を図る「知識活用型授業・課題解決型授業」がバランスよく展開されており、生徒が自己成長感・自己効力感を実感しながら学力を向上させている。 |
| 実践内容 | 〇「授業研究プロジェクト」の活性化〇授業参観シートを活用した授業研究の実施〇公文式教材を活用した「積上げ学習」の効果の検証〇「亀の山」（毎日始業前に全生徒を対象に実施している朝学習）に関するプロジェクトチームを新たに立ち上げ、教材等の在り方を見直すなど集中的に検討する。 |
| 評価指標 | 〇生徒満足度調査において「学力が向上した」と回答した生徒６割以上〇職員満足度調査において「授業力が向上した」と回答した教員５割以上 |
| 評価結果 | （本年度末に記入） |
| 行動計画 | （本年度末に記入） |

**イ　生徒指導**

|  |  |
| --- | --- |
| 現状と課題 | 生徒指導に関する取組への理解・姿勢に教員間格差がみられるため、徹底した共通理解・共通実践と学び合いが必要である。生徒については、SNSを介したグループ内・間トラブルへの対応や、特に女子生徒に対する個別相談への対応の充実を図る必要がある。 |
| 目指す状態 | 全教員が、生徒の自己指導能力（その時、その場で、何をすべきで何をすべきでないのか、どのような振る舞いが適切なのかを、自ら考え、判断し、自主的・主体的に行動する能力）について共通理解し、全教員の総意で決定した取組を共通実践している。 |
| 実践内容 | 〇頭髪・服装指導に関する共通実践としての取組年３回以上実施〇非常勤講師を含む全教員による共通実践項目１つ以上の決定と完全実施〇特別支援を必要とする生徒に関するケース会議又は事例検討会を年１０回以上実施 |
| 評価指標 | 問題行動による特別指導件数年５件以内 |
| 評価結果 | （本年度末に記入） |
| 行動計画 | （本年度末に記入） |

**ウ　進路指導**

|  |  |
| --- | --- |
| 現状と課題 | 自分の進路決定に依存的で、自らの責任で進路実現を果たそうとする姿勢に欠ける生徒が多い。インターンシップや企業見学に生徒が主体的に取り組めるよう指導の充実を図る必要がある。 |
| 目指す状態 | 生徒が、自分の進路について必要な情報を得たり教員・保護者等と相談したりしながら、主体的に考え、行動し、自らの責任で進路を決定する力を身に付けている。 |
| 実践内容 | 〇生徒・保護者対象の進路説明会等必要な進路関係行事の計画的実施〇企業・大学見学時のマナー、アポの取り方、面接の受け方などの計画的指導 |
| 評価指標 | 希望どおり進路実現を果たした生徒８割以上 |
| 評価結果 | （本年度末に記入） |
| 行動計画 | （本年度末に記入） |

**エ　安全・健康指導**

|  |  |
| --- | --- |
| 現状と課題 | 保健室を利用する生徒も多く、精神面も含めた健康指導や個別の相談業務など、種々の対応に負われる状態が続いている。今後は、専門スタッフの配置も視野に入れ、安全・健康指導に関する業務の適切な遂行方法について、抜本的に検討する必要がある。 |
| 目指す状態 | 生徒が心身の健康を保持しながら安心して学校生活を送ることができるよう、安全・健康指導面での人的・物的な態勢が整っている。 |
| 実践内容 | 〇特別支援を必要とする生徒に関する「個別の指導計画」を作成・活用し、校内委員会、ケース会議、事例検討会を年１０回以上実施 |
| 評価指標 | 心身の健康状態が年度当初に比して改善されたと考えられる生徒多数 |
| 評価結果 | （本年度末に記入） |
| 行動計画 | （本年度末に記入） |

**オ　特別活動**

|  |  |
| --- | --- |
| 現状と課題 | 友人関係が希薄化しており、自主的・主体的に考えて行動する姿勢や社会性に欠ける生徒が多い。今後は、互いにコミュニケーションを円滑に図りながら学校で楽しく集団生活が送れるよう、生徒の対人コミュニケーションスキルを向上させる必要がある。 |
| 目指す状態 | 生徒が学校行事、生徒会活動などに積極的な態度で取り組み、集団の一員として自己有用感を実感しながら学校生活を送っている。 |
| 実践内容 | 〇社会的自立や社会貢献を念頭に置いた体験活動（ボランティア活動等）の実施〇ソーシャルスキルトレーニング（ＳＳＴ）に関するプロジェクトチームを新たに立ち上げ、平成３０年度入学生を対象にＳＳＴを特別活動の正規の授業として新たに実施 |
| 評価指標 | 生徒満足度調査で「コミュニケーション能力が向上した」と回答した生徒６割以上 |
| 評価結果 | （本年度末に記入） |
| 行動計画 | （本年度末に記入） |

**カ　部活動**

|  |  |
| --- | --- |
| 現状と課題 | 運動部、文化部それぞれ１０部近く結成されているが、年間を通じて活動している部は多くない。また、ＰＴＡ等が組織されておらず、東海大会・全国大会に出場する生徒に対する予算支援がないため、出場生徒の保護者の負担は大きい。今後は、先ずは生徒会が中心となって部活動の更なる活性化に向けた取組が必要である。 |
| 目指す状態 | 多くの部が年間を通じて計画的・自主的に活動し、その成果が体育祭・文化祭や各種大会で発表・披露されることで学校に活気が溢れ、生徒の学校満足度を高めている。 |
| 実践内容 | 生徒会による部活動活性化に向けた取組を指導助言する。 |
| 評価指標 | 年間を通じて計画的・主体的に活動する部の数１０以上 |
| 評価結果 | （本年度末に記入） |
| 行動計画 | （本年度末に記入） |

**キ　総合コース**

|  |  |
| --- | --- |
| 現状と課題 | 生徒に複数の講座から選択受講させているが、希望者少数のため開講できない講座がある。各講座の一層の魅力化を図るとともに、特に昨年度新たに開講したグローバル・コミュニケーション講座については内容の充実を図る必要がある。 |
| 目指す状態 | 生徒が自己の目標、興味・関心等に応じて講座を主体的に選択し、意欲的に学んでいる。また、ネイルアート講座等では、多数の受講生が各自の目指す検定試験に合格している。 |
| 実践内容 | 〇ネイルアート講座の受講生が学習成果を校外で発表する場を年５回以上設ける。〇グローバル・コミュニケーション講座について、英語の公文式教材を新規導入し、その効果的な活用方法等を検討するとともに、英語による言語活動の多様性を確保する。 |
| 評価指標 | 〇ネイルアート講座の受講生の７割以上が自己の目指す検定試験に合格○グローバル・コミュニケーション講座の受講生の6割以上が「公文式教材を使った積み上げ学習に概ね満足」と回答〇生徒満足度調査の結果、「選択講座の授業に概ね満足」以上と回答した生徒６割以上 |
| 評価結果 | （本年度末に記入） |
| 行動計画 | （本年度末に記入） |

**ク　ドッグケアコース**

|  |  |
| --- | --- |
| 現状と課題 | 生徒間で専門的な知識・技能に関する個人差が大きく、検定合格に向けたきめ細かな対策が必要である。また、生徒が身に付けた専門性を生かせる希望進路を実現できるよう、個に応じた進路ガイダンスと進路開拓に努める必要がある。 |
| 目指す状態 | 犬との接し方や各犬の課題等の改善方法を「見える化」するなどして全生徒・教員が共有しており、生徒全員が目指す検定試験に合格するなどして希望進路を実現している。 |
| 実践内容 | 〇夏季・冬季休業中にトリミング講習会を学年・級別に５講座開講〇特別支援学校、福祉施設等でのドッグセラピー実習を年１０回以上実施 |
| 評価指標 | ○ドッグマスター検定全員合格○ドッグトレーナー検定２級に全対象生徒の６割以上合格○ドッグトリマー検定２級に全対象生徒の３割以上合格〇生徒満足度調査の結果、「コースの授業に概ね満足」以上と回答した生徒７割以上 |
| 評価結果 | （本年度末に記入） |
| 行動計画 | （本年度末に記入） |

**ケ　パソコンコース**

|  |  |
| --- | --- |
| 現状と課題 | 生徒間で検定試験の合格状況、社会人に求められるコミュニケーション能力やマナーの習得状況に格差がみられることから、情報関係の検定試験合格を全生徒の目標に据えるとともに、コミュニケーション能力及び社会人マナーの向上に関する検定試験の実施環境を整備する必要がある。 |
| 目指す状態 | 全生徒が複数の情報関係の検定試験を受験し、合格している。また、ＩＴパスポート試験等の国家試験の受験者が増加している。 |
| 実践内容 | ○市民向けパソコン講座の実施○企業見学等学校外における学習活動の計画的実施○検定試験対策に特化した夏期特別講座等の実施 |
| 評価指標 | 〇生徒満足度調査の結果、「コースの授業に概ね満足」以上と回答した生徒７割以上 |
| 評価結果 | （本年度末に記入） |
| 行動計画 | （本年度末に記入） |

**（２）学校運営等**

**ア　教育環境の整備**

|  |  |
| --- | --- |
| 現状と課題 | 防水工事や設備更新を必要とする箇所がある。計画的に対策を講じていく必要がある。 |
| 目指す状態 | 工事・修繕等を計画的に行い、自然災害等が発生しても生徒・職員が安心して学校生活を送れる教育環境が整備されている。 |
| 実践内容 | 〇軽度の要修繕箇所の即時対応〇防水工事等の計画的着工〇普通教室ＩＣＴ化に向けた実施計画の策定（予算編成、補助金活用など様々な観点から実施計画を策定） |
| 評価指標 | 防水工事等年度内着工３件以上 |
| 評価結果 | （本年度末に記入） |
| 行動計画 | （本年度末に記入） |

**イ　組織運営**

|  |  |
| --- | --- |
| 現状と課題 | 職員間・分掌間の連携・協力や職員個々の知識・経験・情報の共有が十分とは言えない。今後は、その要因を探り、研修の充実や組織体制の見直しなど必要な対策を講じる必要がある。 |
| 目指す状態 | 職員一人一人が職員間・分掌間で「報告・連絡・相談・確認」を繰り返しながら意欲的に職務を遂行し、「役割間の隙間にある業務は自分の仕事」という意識を持っている。 |
| 実践内容 | 〇職員会議での組織力向上に関する意識啓発文書の配付年５回以上〇昨年度の「年度末反省」の集約結果を踏まえた「重点改善事項」１４項目の完全実施〇学校内外の成果や情報などの環流報告年１０件以上 |
| 評価指標 | 職員満足度調査で「報告・連絡・相談・確認は概ねできた」と回答した職員６割以上 |
| 評価結果 | （本年度末に記入） |
| 行動計画 | （本年度末に記入） |

**ウ　学校満足度**

|  |  |
| --- | --- |
| 現状と課題 | 昨年度新たに実施した生徒・保護者・職員対象の各満足度調査を引き続き実施し、その結果を学校運営改善に役立てる必要がある。 |
| 目指す状態 | 生徒・保護者・職員対象の学校満足度は高い状態が続いている。 |
| 実践内容 | ○生徒・保護者・職員対象の各満足度調査を適切な時期に実施。〇昨年度の「年度末反省」の集約結果を踏まえた「重点改善事項」１４項目の完全実施（再掲） |
| 評価指標 | 生徒・保護者・職員対象の各満足度調査で「本学園に概ね満足している」旨回答した生徒・保護者・職員各６割以上 |
| 評価結果 | （本年度末に記入） |
| 行動計画 | （本年度末に記入） |

**５　「高等学校通信教育の質の確保・向上のためのガイドライン」（平成２８年９月策定、平成３０年３月一部改訂、文部科学省）を踏まえた自己評価**

（本年度末に記入）

**６　本年度の学校関係者評価**

（本年度末に記入）

**７　次年度に向けた主な行動計画**

（本年度末に記入）